

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスほの		
○保護者評価実施期間	2026年2月4日(水)		～ 2026年2月14日(土)
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2026年2月4日(水)		～ 2026年2月14日(土)
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月18日(水)		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食育やクッキング、制作のイベントが豊富に行われている。	季節や時期に合わせた食材を用いてクッキングイベントを設定している。 制作でも季節ものや発達段階に合わせて職員がフォローしながら取り組んでいる。	クッキングでは、放デイと児発の発達段階に合わせて取り組み内容を変えて、グループわけを行っている。
2	日々の活動の中で、気になった点・児童について朝礼終礼で話し合いができています。	伝え方や取り組みの内容を職員で統一できるよう意識している。	視覚的支援やご家庭でも同じように支援を行っている。ただけようご家族への情報共有を行っている。
3	てんかんやアレルギー児童の対応について会議で話し合いをして日々更新している。	てんかんの際の対応など毎月の会議で振り返りを行っている。 アレルギーに関しては、同じ食材でアレルギー物質のないものを別で用意するなど全児童が参加できるように工夫している。	全職員が対応できるようマニュアルを作成して事務所や車内にも設置している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所のプレイルームが15名だと全児童のスペースの確保が難しく、事故のリスクが高くなる。	スペースの確保が難しいと事故やケガのリスクが上がる。 他児同士でのトラブルが増えてしまう。	部屋に区切りをつけるなど、活動内容に合わせたスペースの確保を行っていく。
2	来所時間がそれぞれ違うため、個別・集団療育の活動が行えない児童がいる。	プリント課題や療育のルーティン化が図れていないため。	一人一人や全体のスケジュールや療育内容を視覚的に提示していく。 個別ファイルにスケジュールを自己管理、作成していく。
3	地域・家族・保護者との交流する機会が少ない。	外出支援ができないことで交流の場が狭まっている。	保護者や兄弟のイベントを作り、来所していただき交流を広げていく。

公表

## 保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスほの

公表日 2026年2月25日

利用児童数 17名

回収数 12名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	5	1	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	2	1	4		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思	11	1	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。	11	1	0	0		
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援	8	3	0	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合	9	2	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分	10	2	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提	9	2	0	1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	2	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います	9	1	0	2		
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと	2	3	1	6		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ	11	0	1	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	1	1	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)	6	1	2	3		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態に	9	3	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	2	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	3	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流	2	2	2	6		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されている	8	2	0	2		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると	8	2	1	1		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制	9	0	0	3		

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	1	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル	8	1	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓	5	1	0	6		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、	7	1	0	4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事	9	0	1	2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11	1	0	0	とても助かっております。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	1	1	”	
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	4	0	0	”	

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスほの			公表日	2026年 2月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	3	こまめに喚起するよう心がけている運動の際に他の児童に危険がないよう配慮している。	部屋の広さが必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	3		欠勤が出た際に、送迎者のヘルプが必要になる場面が多い
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	10	0	こまめに喚起するよう心がけている運動の際に他の児童に危険がないよう配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また	7	3		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認めら	8	2		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、	7	3	朝礼などで、こどもたちの様子で気になる点や連絡事項を共有し、改善につなげている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設け	10	0	〃	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に	10	0	〃	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2	〃	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で	10	0	〃	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	子どもや家庭に関する情報を共有し、対応について話あっている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者	10	0	〃	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけ	10	0	〃	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われ	10	0	〃	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマ	10	0	〃	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支	10	0	〃	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	〃	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	〃	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせせて見	10	0	〃	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の	10	0	〃	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援	8	2	〃	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に	9	1	〃	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性	10	0	〃	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に	10	0		地域の子どもたちと交流する機会がないので今後設けていけたらよいと思う
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、	10	0		〃
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の	10	0		〃
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、	9	1		〃
	28	(28～30は、センターのみ回答)				〃
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携				〃
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				〃
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				〃
	31	(31は、事業所のみ回答)				〃
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパ	9	1		〃
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこども	6	4		〃	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や	10	0		〃	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログ	7	3		〃	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行	10	0		保護者同士、兄弟同士の交流の場を作っていければよりよいと思う
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重	10	0		〃
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者	10	0		〃
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ	10	0		〃
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により	6	4		〃
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備す	10	0		〃

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することによ	10	0		〃
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0		〃
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	10	0		〃
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を	7	3		〃
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感	10	0	食に関するイベントの際、使用する材料を事前に保護者に連絡する。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え	10	0	〃	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し	10	0	〃	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応	10	0	〃	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措	10	0	〃	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全	10	0	〃	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について	10	0	〃	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を	10	0	〃	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に	10	0	〃	

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスぽの		
○保護者評価実施期間	2026年2月4日(水)		～ 2026年2月14日(土)
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年2月4日(水)		～ 2026年2月14日(土)
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月18日(水)		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	モニタリング時に、保護者様からの聞き取りでニーズを把握し、利用予定の児童さんたちの得意とするものを個々に組みこんで療育が実施できる。	面談時に、保護者の表情から気持ちの汲み取りをし、具体的に言葉にして整理していき、意思を明確化していく取り組みをしている。	2回目以降になる個別支援計画策定の折のアセスメントシートを保護者様が記入しやすい内容の質問設定にして用意しモニタリング時に意向が深く掘り起こすようにすることで信頼関係の構築を図っている。
2	巷で話題になっていることを組み込んだイベント等を計画実施できている。	イベント企画に際しては、理解しやすい内容及び安全第一に考えたものを実施している。季節的行事やそのいわれ等を話をしたりしている。	広く上情報収集しながらいろいろな工夫をして身近な材料を使って持ち帰って(利用日完成の目指す)保護者様に子供さんのできる力を確認してもらいほめてもらうことで、子供の自身につながるように取り組む。
3	年齢層が多岐にわたるので、年齢の上の子が下の子のお世話をしたり優しい声掛けを自然とできる施設であり助けあう気持ちで自然と育つ。	小集団活動としての工作活動を組みこむことで、異年齢同士の自然な変わりができて、コミュニケーション能力が身につくような声掛け、実施を意識的に取り組んでいる。	小集団からさらに人数が多いグループ活動へと内容を工夫して集団支援も時には企画して、皆で楽しめる取り組みを組み込んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童送迎範囲が広がってしまっていて、送迎時間がかかりすぎてしまうことがある。施設内で療育担当の先生が一人で6人くらい見守ることがある。	効率を考えて送迎を組んでも当日変更があるので送迎ルートを熟知している先生方であり保護者の方の希望を聞き入れられているが複数の変更申し出が発生するとこたえられない。	送迎車3台用意しているが、運転のみ担当の指導員が1名であるため、運転のみ担当の指導員の方がもう1名送迎ラッシュ時間帯のみ担当してくれる方がおられる施設内療育展開が安心である。
2	施設内にクールダウンする小部屋としてはない。クールダウンが必要な場面や、静かな環境でないと落ち着いて勉強ができない児童の療育にスペース確保ができない。	パーティション等に区切れて、周囲と区切れる場所を設定することで、気持ちの切り替えがしやすいと思っている。	室内テントのような狭いスペースが確保できるのではと思う
3	ワンフロアでの療育になっているので、児童が大きな声で発信した際に騒がしい時がある。	トーンを下げる指示図を壁面に提示して、児童たちに目で確認しながら指示が通るようにする。	あまりにも大きな声でのお話をする児童が利用の日には、イヤホンを使用したい児童には個別で、持参等の対応を行う。

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスほの

公表日 2026年2月25日

利用児童数 23名

回収数 17名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	3	0	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	0	1	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思	17	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。	16	0	0	1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援	11	4	0	2	・他害があった際にご自宅でも声 かけをと報告がある。そのような ことは療育で訓練していただくの では？	・療育で行っていることをご自宅 で行っていただけるように保護者様へ情 報共有をしていく。 ・ブログ等で保護者様へ発信していく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合	15	2	0	0	”	”
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分	15	2	0	0	”	”
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの	15	1	0	1	”	”
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1	1	0	”	”
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います	12	3	0	2	”	”
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会	2	5	3	7	”	”
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ	16	0	0	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ	16	0	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)	4	6	2	5		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態に	12	5	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	2	1	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流	3	5	4	5		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されている	12	2	1	2		
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると	13	3	0	1			

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制	10	4	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル	7	2	1	7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓	8	2	1	6		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、	12	1	0	4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事	11	2	0	4		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	0	0	2	宿題支援をしてくださり助かって ます。兄弟に優しい言葉かけをして 手伝ってくれるようになりました。 デイで人との関わりを学んだのかなと 思っています。	継続して行っていく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	1	0	0	”	”
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	3	1	1	”	”

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスほの				公表日	2026年2月18日(水)
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0		小学生が落ち着いて宿題に取り組める専用の場所がないため、別室が必要な子どもが宿題をする際には職員が休憩
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0		〃
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	6	0		〃
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、	6	0		〃
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められ	5	1		〃
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、	5	1	職員同士で情報共有する機会を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けて	5	1	〃	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につ	6	0	〃	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	1	〃	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研	6	0	〃	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	何か問題が起きた時に、子供に理由を聞く機会を設けている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者の	6	0	〃	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任	6	0	〃	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援カ	6	0	〃	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマル	6	0	〃	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドライン	6	0	〃	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	〃	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	〃	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課	6	0	〃		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内	6	0	〃	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の内	5	1	〃	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につ	6	0	〃	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの内	6	0	〃	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み	5	1	〃	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等自己決定を	6	0	〃	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、	6	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教	6	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻	6	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援	6	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所	6	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスー	6	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する	4	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課	6	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラ	5	1		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行	6	0		地域の子供たちとの交流の場を設けて いけたらよいと思う
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意	6	0		〃
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行	6	0		〃
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必	6	0		〃
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、	4	2		〃
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するととも	6	0		〃

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより	6	0		”
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		”
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		”
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		”
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染	6	0	食に関するイベントの際、事前に保護者に材料を連絡している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、	6	0	”	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認して	6	0	”	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応が	6	0	”	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置	6	0	”	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計	6	0	”	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検	6	0	”	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をし	6	0	”	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決	6	0	”	